

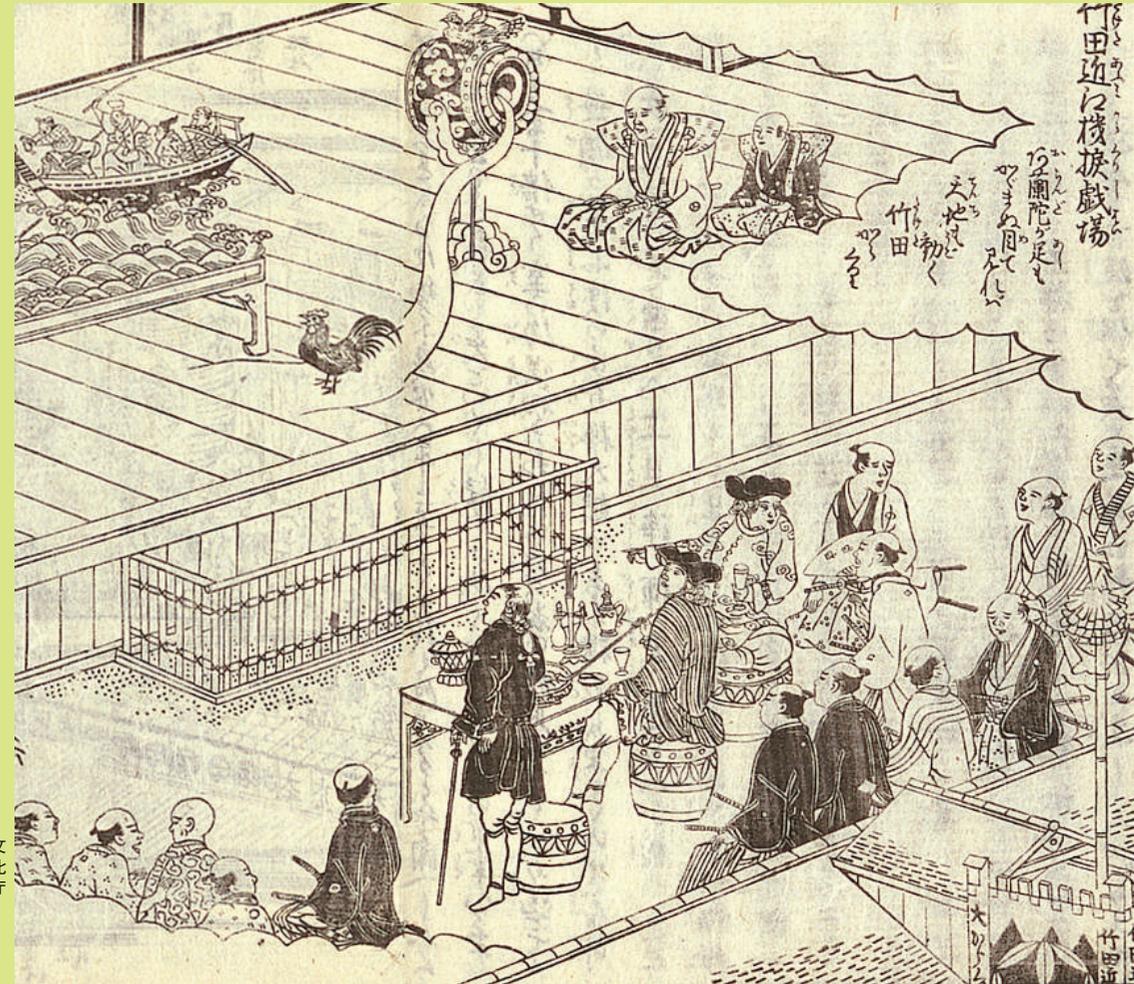
Handbook on multilingualization

観光客は  
外国人!

# 文化財の多言語化 ハンドブック

Handbook on multilingualization

文化財の多言語化ハンドブック



文化庁



## 目次

- P.02 はじめに
- P.03 文化財の多言語化とは？
- P.05 なぜ多言語化が必要なの？
- P.06 外国人と日本人の興味の違い
- P.07 英語解説の改善・充実にあたっての視点
- P.09 事例紹介
  - P.09 事例1 外国人目線で解説しよう！（北海道釧路市）
  - P.13 事例2 既にある多言語表記を見直してみよう！（石川県金沢市）
  - P.16 事例3 多言語化を依頼する前に・・・（長崎県長崎市）
  - P.21 事例4 多言語化の先進事例！（京都府京都市）
  - P.27 事例5 外国人が作った外国人向けのガイドブックを見てみよう！（株式会社 俄）
- P.31 外国人と日本人の考え方の違い
- P.33 日本の文化や文化財の観光マナーを伝えよう
  - P.33 注意書き
  - P.41 案内表示
  - P.47 口頭で使えるフレーズ
- P.49 参考資料

## はじめに



日本全国を様々な国の訪日外国人旅行者が数多く訪れるようになりました。2013年に初めて1,000万人を超えて以降も急増し続け、2018年には推計で3,000万人を超える訪日外国人旅行者が日本を訪れました。さらに、日本政府は、2020年には4,000万人、2030年には6,000万人とすることを目標に掲げています。

今後もさらに訪日外国人旅行者が増えていくということは、これまでに来ていた地域にはより多く、ほとんど来ていなかった地域にも、多数の訪日外国人旅行者が来るようになるかもしれません。

歴史や文化は、訪日外国人旅行者が訪問場所を決める際に最も重視する分野の一つです。現在でも、多くの文化財で、既に何らかの多言語解説は整備されていますが、日本人の視点で見ても内容の専門性が高く、初めてその地を訪れる訪日外国人旅行者にとっては、「分かりづらい」ものになっているかもしれません。

これまで文化庁においては「文化財の効果的な発信・活用ガイドブック」、文化財に関する国際発信力強化の方策について（提言）を作成し、観光庁においては「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」の作成、「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」の推進（文化庁・環境省とも連携）、さらに、文化庁・観光庁との共同で「文化財の英語解説のあり方について」を作成するなど、多言語化の普及促進に努めてきました。

しかし、具体的にどのような人材がどのタイミングで関わり、どのようにネイティブの外国人ライター等と連携し、どのような点に留意しながら多言語化を行っているのかについて、詳しく紹介するものではありませんでした。そこで、本書では、文化庁の「日本の歴史・伝統文化情報発信推進事業」で多言語化を進めた北海道釧路市、石川県金沢市、長崎県長崎市の事例を基本に、各市が行った実際の作業工程にも触れながら紹介します。

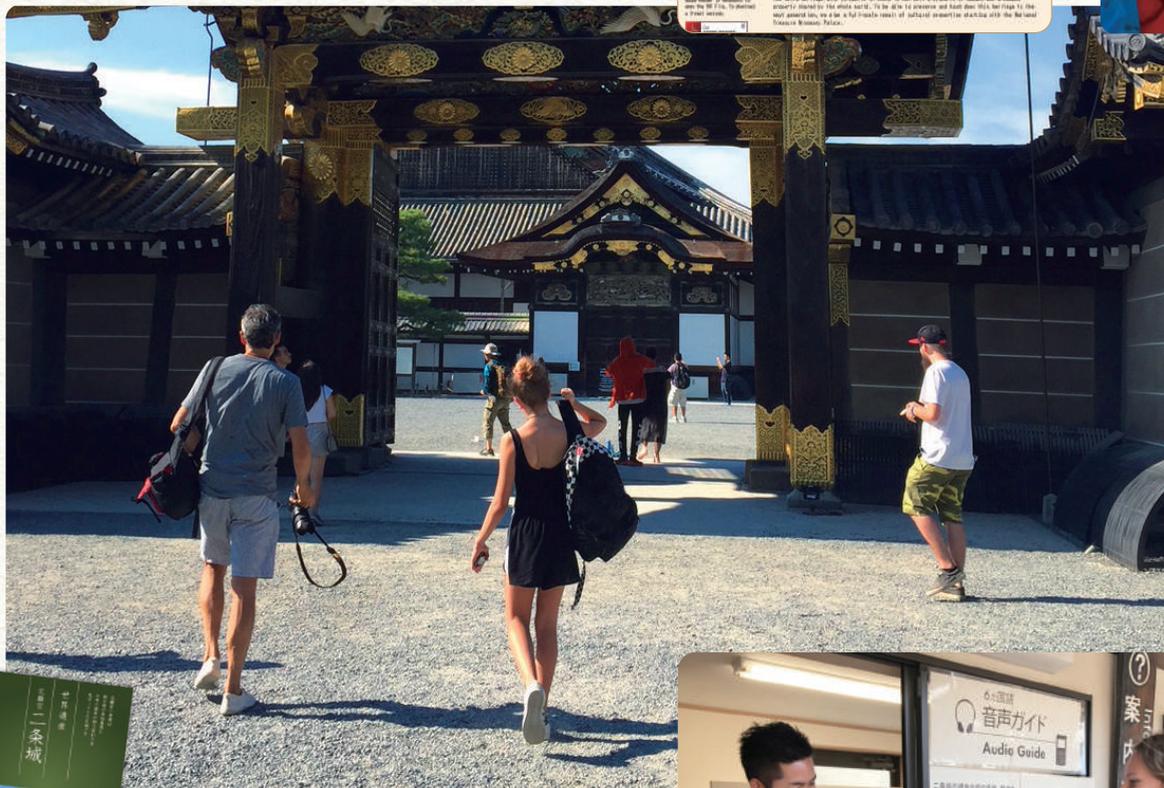
また、日本の中でも文化財が集中し、既に非常に多くの訪日外国人旅行者が訪れている京都市をはじめ、京都府内の寺社仏閣の関係者や文化財所有者、京都外国語大学等の教育機関、翻訳会社等の民間事業者等から、直面している問題や課題についてのヒアリングも実施し、それらを踏まえて、すぐに活用できるフレーズ集も作成しました。

多言語化の担当になったものの、どのように作業を進めたらよいかわからないと困っている市区町村の担当者、最近、訪日外国人旅行者が来るようになって対応に困っているという文化財所有者の皆さまに、ぜひご活用いただければと思います。

文化財の  
多言語化  
とは？

文化財の多言語化とは、文化財そのものを外国語で解説することのみではなく、それら文化財の周辺環境を含めて訪日外国人旅行者にとって分かりやすい表示を行うことをいいます。

多言語化は、訪日外国人旅行者に快適に文化財の観光を楽しんでもらうだけでなく、文化財に関する知識や文化財鑑賞におけるマナー等を正しく伝え、身につけてもらうことで、大切な文化財を守り伝えていくという重要な意味も持っています。



## なぜ多言語化が必要なの？

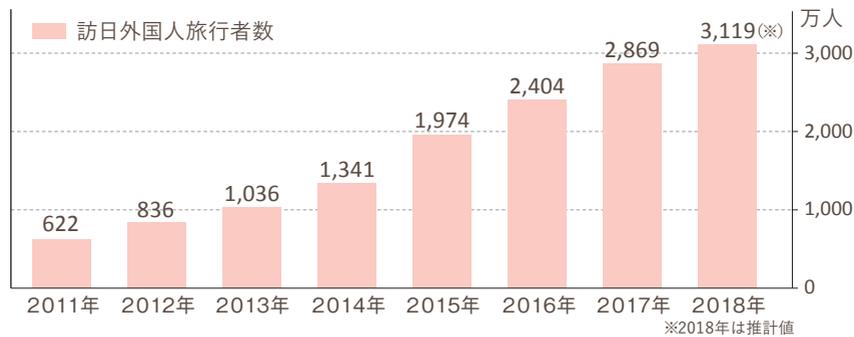
### 文化財観光の現状

観光は、地域の活性化に繋がる一方で、脆弱な文化財や地域の文化を壊し、様々な問題を引き起こすものとして捉えられがちです。しかし、日本では少子高齢化や人口減少が進み、多くの地方都市では文化や文化財の担い手や継承者が不足しています。そのため、交流人口を増やし、観光客の力を借りる文化財保護を考えていかなければならない時代にきています。

国連世界観光機構によると、2017年の国際観光客数は前年比8,300万人増の13億2,200万人となっており、今や観光は、世界最大の成長産業として注目されています。訪日外国人旅行者も年々増加傾向にあり、特に歴史や文化は、彼らにとって関心の高い分野であるため、文化財にも多くの旅行者が訪れています。その一方で、訪日外国人旅行者の中には、日本の文化や文化財への理解が十分ではなく、気付かず文化財を傷めてしまったり、敷地内でマナー違反行為をしてしまうなどのトラブルも増加しており、その対策が喫緊の課題となっています。



### 訪日外国人旅行者数の推移(暦年)



出典:日本政府観光局(JNTO)

### 文化財への理解の促進と文化財保護につながる多言語化

現在、文化財の多言語化が進んでいますが、その多くは、訪日外国人旅行者にとって理解しやすいものとは言えず、満足できる内容になっていません。また、現在の多言語解説が訪日外国人旅行者に文化財の持つ価値や文化としての意味を十分に伝えることができていないことも、トラブルの増加につながっていると考えられます。

訪日外国人旅行者にそれらの知識や文化財鑑賞におけるマナー等を正しく伝え、身につけてもらうことで、文化を尊重する意識が醸成され、大切な文化財を守ることに繋がっていきます。それと同時に、訪日外国人旅行者が理解しやすく魅力的な多言語化を行うことによって、さらに彼ら呼び込むことができれば、文化財を後世に守り伝えていく力に変えていくことができます。

## 外国人と日本人の興味の違い

人が何を好み、何に関心があるのか。これは個人の嗜好によることも当然ありますが、それ以前にその人が所属する文化が影響を与えている部分も大いにあります。

それは観光という側面においても同様で、日本人では思いもよらぬ物事に興味を抱き、観察して楽しんでいる訪日外国人旅行者を見たことがあるのではないのでしょうか。これはつまり、外国人と日本人では、知りたい情報、必要とする情報が違うということです。日本人に向けた案内や解説などの情報を、そのまま多言語化しても、それは必ずしも外国人が知りたい情報ではない可能性があります。

### 《「lonely planet Kyoto」最新版7版、二条城の場合》

「lonely planet」は、英語による旅行ガイドブックで世界一のシェアをもちます。「lonely planet Kyoto」を例に外国人と日本人の興味の違いについてみていきます。

#### 文化財の指定・登録

築城年代やその理由など、日本の旅行ガイドブックと同じような歴史背景の説明があるものの、「国宝」や「特別名勝」「重要文化財」といった国による指定への言及がないことに気づきます。世界遺産に登録されていることは同書の別の場所では言及されていますが、それも二条城の紹介情報の中にはありません。

#### 外国人の文化からの引用

表現として目を引くのが、室内装飾に関する説明で、「superb (almost rococo) interiors」(まるでロココ調のような見事な室内)と、その読者が想像しやすいものを引き合いに出しているところです。このような表現は、文字のみで情報を伝える工夫でしょう。

#### 日本的なモノの視点

多くの説明がされているのが庭園についてです。庭園は「Must see」であり、「perfect for a stroll」(散歩に最適)とされています。日本人は日本史を体系的に学んでいることから、歴史的な事件に関する文化財は、その知識の確認や体感の装置としてその文化財を活用することができます。そのため日本人に向けた観光ガイドブックでは二条城について「家康の京都での居城」や「後水尾天皇の行幸」、「大政奉還」などが強調される傾向にあります。しかし訪日外国人旅行者にとっては、体系的な日本史の知識がないことが多いため、日本庭園のような直接的な「日本的なモノ」を実感・体感する装置としての意味のほうが強いのでしょうか。

このように、訪日外国人旅行者向けのガイドブックを分析することで、外国人がどのような視点から日本の文化財を眺め、楽しんでいるのか、その一端がみえたのではないのでしょうか。

(京都外国語大学 作成)

## 英語解説の改善・充実にあたっての視点

これまで文化庁においては「文化財に関する国際発信力強化の方策について(提言)」の作成、観光庁においては「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」の作成、文化庁・観光庁の共同で「文化財の英語解説のあり方について」を作成するなど、全国が多言語化対応に国を挙げて努めています。ここでは、これまで文化庁や観光庁から出された報告書等をもとに、英語解説の改善・充実にあたっての視点をおさらいします。詳細は上記を参考にしてください。

まずは、次の3つについて心掛けましょう!

1

できるところから多言語解説の整備を進めていくことが取組の第一歩!

2

訪日外国人旅行者に分かりやすい解説となるよう工夫!

3

「見て感動し、その価値を理解していただく」ことに主眼を置く!

具体的には、以下の4つの視点を持ちましょう!

- 視点1** 日本語の解説を直訳せず、基本的な用語の解説を補足する等、文化財を理解する上で前提となる情報を解説に盛り込みましょう。
- 視点2** 外国人の目線でその文化財のどこに興味・関心を持つかを把握し、メリハリの利いた解説内容としましょう。
- 視点3** 案内板やパンフレットなどの解説媒体に応じ適切に情報を書き分けるとともに、デザイン上の見やすさや景観との兼ね合いも考慮しましょう。
- 視点4** 分かりやすい解説のためには、英文執筆・翻訳を委ねることができる優れた人材の確保が重要です。

成功のポイント!!

### 文化財の多言語化の質的改善のために・・・

- 多言語での文化財解説を制作するにあたっては、「多様な訪日外国人旅行者に楽しんでもらえるよう、どのような内容を紹介するか」を吟味することが必要です。この際、表面的な意味合いのみならず、精神性、歴史等まで分かるコンテンツをいかにして作るかが重要になります。
- 専門家の関与が重要です。日本語解説を翻訳するのではなく、ネイティブの外国人ライターが書き起こした文章に監修を入れて内容をチェックするという方法が有効です。
- まず英語解説を一度仕上げしてから、他の言語にも展開することが有効です。
- 伝統芸能や伝統文化についても、多言語で鑑賞を楽しむために様々な工夫が必要です。

### 多言語化の加速のために・・・

- 多言語化に関する人材や専門用語の対訳などについて知見を共有すること等により、どの地域・文化財であっても質の高い多言語化を行うことが可能となる環境整備が必要です。

### 文化財や地域の国際発信力強化のために・・・

- 誰もが情報発信の主体となりうる現代社会においては、来訪者自身が情報発信になりうるため、日本に来訪した方々が魅力を感じられるような丁寧で楽しめる解説の整備が国際発信力強化につながります。
- インターネットを活用した取組も有効(例:オンライン上での動画配信)です。
- 地元の住民が地元の文化を理解しておくことが重要です。



### コラム1 観光庁の今後の取組について

現在、観光庁は文化庁・環境省と連携し、「地域観光資源の多言語解説整備事業」を通じて、多言語化に関する①指針、②スタイルマニュアル、③事例集・用語集を出す予定です。それには、魅力的な多言語解説を作成するための訪日外国人の興味関心の把握、解説媒体の特性の考慮、解説文作成のポイント、英文の執筆や監修を委ねることができるネイティブの専門人材による解説文作成のための体制などが具体的に示されます。ぜひ、そちらも参考にしてください。





## 外国人目線で解説しよう！

生まれ育った国や歴史が異なる外国人が興味を持つことは、必ずしも日本人と同じとは限りません。外国人目線で解説を考えていきましょう！

### 多言語化に 取り組む前の ニーズ調査

地域において多言語化を実施する場合、全ての文化財について多言語化ができれば最も良いことは言うまでもありませんが、どの主体も、限られた財源と人材の中で多言語化を実施していくことになります。

そのような状況下で効果的に多言語化の対象を選択するためには、多言語化に着手する前に、訪日外国人旅行者が地域のどのようなことに興味を持つのかについて、アンケート等を利用して分析しておくことが有効です。例えば、釧路市では、下記のようなアンケート調査をインターネットで実施しています。



**調査手法** インターネットを利用した調査(回答数:453件, 39か国)

**調査期間** 11日間

### 質問の例

#### 年齢, 性別, 国籍

**質問の目的:** 属性を踏まえたニーズ調査を行うため

**展開:** 国籍や年齢, 性別等, 訪日外国人旅行者の属性は多岐にわたり, それらによって興味や関心の対象が異なります。こうした内容を調査しておくことで, 当該地域や文化財の認知度や興味といった詳細な質問項目とクロス集計を行うことも可能になり, その後の質問項目をさらに効果的に分析することができます。

#### 旅先として興味のあることは何ですか?(歴史・文化, 自然環境, 文化体験等)

**質問の目的:** 訪日外国人旅行者の関心が高い分野を把握するため

**展開:** 関心の高い分野を把握することによって, 訪日外国人旅行者のニーズに合った分野を優先的に多言語化する等, 戦略的な多言語化が可能になります。

#### 北海道を旅行しましたか?どこを訪れましたか?

**質問の目的:** 近隣地域で訪日外国人旅行者がよく訪れている地域を把握するため

**展開:** 訪日外国人旅行者がよく訪れている地域について自らの地域と比較することで集客に係る弱みや強みを分析するとともに, 近隣地域からの観光ルートの開発等, 広域的な視点での観光戦略につなげることができます。

#### 旅先検討時の主な情報収集ツールは何ですか?(旅先の公式HP, ガイドブック, SNS等)

**質問の目的:** 効果的な情報発信方法の検討のため

**展開:** 旅先を検討する際の主要な情報収集ツールを把握することによって, 既存の情報収集ツールの有効性の分析と, ターゲットとする属性に応じた訴求力の高いツールを用いた情報発信ができるようになります。

### 調査のポイント

ニーズ調査をするときには, 下記のポイントを考慮しましょう。ニーズ調査の項目によっては, 観光庁や各自治体でも統計をとっている場合がありますので, 前もってそれらの情報を確認した上で, 方針を決定するために不足している情報を得るのに有効な設問を設定するようにしましょう。

#### POINT 1 さまざまな国や 地域の人の意見を 聴きましょう

ターゲットとなる旅行者の国や地域が既に決まっている場合を除いて, できるだけ国籍や居住している地域を限定せずにアンケートを行いましょう。インターネットを利用することで, 幅広い国や地域からの回答を得られる可能性が広がります。

質問には, 優先的に多言語化すべき対象を決定するのに役立つ内容(回答者の年齢, 性別, 国籍や, 観光旅行についての嗜好, 当該地域の資源について興味のある事柄等)を設定しましょう。既に多言語化すべき対象が決まっている場合には, その対象について踏み込んだ質問を設定することも有効です。

#### POINT 2 現状の分析や今後の 方針決定に役立つ 質問を考えましょう

#### コラム2 石川県金沢市のニーズ調査

石川県金沢市では, 市内観光を終えた訪日外国人旅行者に, 市内マップを提示して観光をしている際に印象に残った観光地をヒアリングするとともに, 旅行中に訪日外国人旅行者が実際に撮影した写真を見せてもらいながら, 観光をしている途中に興味を持ったことについて聞き取りを行うというユニークな調査を実施しました。この調査では, 訪日外国人旅行者の訪問先自体は日本人旅行者と大きく変わらないものの, 日本庭園全体の世界観や自然と調和したランドスケープ全体を「美しい」と感じる場合が多いことや, 金沢の人々が暮らしの中で当たり前と感じているもの(例: 整然と自転車が並んでいる駐輪場, 日本語のチケット等)を「ユニーク」と感じたことなど, 今後の観光戦略にとって有益な分析がなされています。

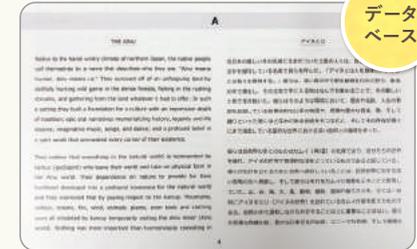
## 外国人による解説の作成

釧路市では、前ページのアンケート調査結果を踏まえて、ネイティブの外国人ライターに解説の作成を依頼しています。その際、釧路市では、下図のような手法でネイティブの外国人ライターがいる民間の翻訳会社に委託をし、原稿を作成しました。

日本語の原稿を翻訳するのではなく、ネイティブの外国人ライターが現地を訪れ、視察・調査を行い、文章を書き起こすことで、外国人目線での解説が可能となります。釧路市では、こうしたネイティブの外国人ライターへの依頼を通じて、HP、看板、データベースの作成をしました。

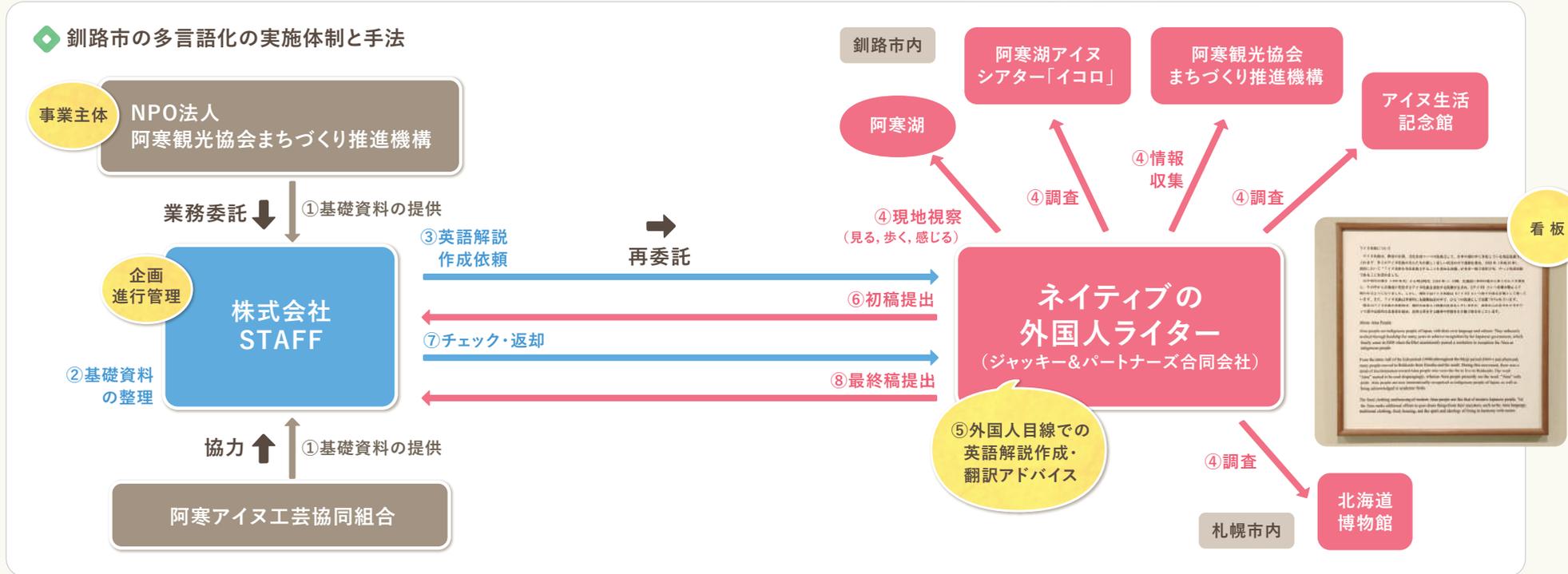


ホームページ



データベース

### ◆ 釧路市の多言語化の実施体制と手法



### ネイティブの外国人ライターに依頼する際のポイント

**POINT 1**  
先入観なく  
現地を感じられる  
環境を整えましょう

ネイティブの外国人ライターが初めて現地を訪れる際には、まずは、多くの情報を与えず、ライターが先入観なくファーストインプレッションを得ることができる環境を整える必要があります。その後、必要な情報を適宜提供していくことで、初めて訪れる訪日外国人旅行者の感情や知識量を考慮した解説の作成が可能となります。



**POINT 2**  
ネイティブの外国人  
ライターとのやり取りを  
密に行いましょう

ネイティブの外国人ライターから提出される原稿は外国人目線で書かれていますが、場合によっては、個人的な趣味や興味に偏ってしまうことも考えられます。異なる国や性別のネイティブのライターに見てもらえる環境が整っている場合には、そうした人に協力を依頼することでより質の高い解説の作成が可能となります。また、発注者側が伝えたい内容と、外国人目線の両者の視点からすり合わせを丁寧に行っていくことが重要です。



## 既にある多言語表記を見直してみよう!

既存の多言語表記についても、訪日外国人旅行者が満足できる内容となっているかアンケート等を用いて分析し、見直してみましょう!

新しく多言語化を行うだけでなく、既存の多言語表記を見直すことでも、より質の高い多言語化ができるようになります。

具体的な見直し方法としては、既存の媒体の多言語表記について、実際に利用した訪日外国人旅行者に対してアンケート調査を行い、それぞれの媒体に対する評価を通して、多言語化に対するニーズや興味・関心を把握するという方法があります。

石川県金沢市では、①ポータルサイト、②市内の周遊パンフレット、③文化施設の英語解説について、効果的な手法を用いて多言語表記に関するアンケート調査を実施しています。このように、多方面から調査を行うことによって、既存の多言語表記の課題を洗い出し、より戦略的に質の高い多言語化を進めることができます。

### ①ポータルサイト評価調査

調査内容	フランス語版及びスペイン語版を整備した金沢市観光協会ホームページの表現や内容等についてアンケートを実施
対象者	フランス話者、スペイン話者で日本に関心のある人
調査方法	インターネット上でのアンケート
質問内容・調査項目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイトを閲覧して金沢への興味が湧いたか</li> <li>・金沢の認知度</li> <li>・サイト閲覧後の金沢のイメージ</li> <li>・サイト上で印象に残った場所/施設</li> <li>・金沢についてもっと知りたいか</li> <li>・自由意見</li> </ul>
調査で把握できた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータルサイトの開設により金沢への関心が喚起されたかどうか</li> <li>・外国人が興味を持つ金沢の名所</li> </ul>
調査の結果に基づく成果	外国人が興味を持つ内容や表現について所属する国の違いを踏まえた把握ができた

### ②パンフレット評価調査

調査内容	「アーキテクチャー・ツーリズム兼六園・金沢城編」(英語版)と「金沢古地図めぐり(東山・長町エリア)」(英語版)の表記についての評価を実施
対象者	金沢市を訪れた訪日外国人旅行者
調査方法	記入式アンケート(市内宿泊施設の受付で調査協力を依頼)
質問内容・調査項目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答者の国籍</li> <li>・冊子の内容の分かりやすさ</li> <li>・分かりやすかった、分かりにくかった理由</li> <li>・自由意見</li> </ul>
調査で把握できた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪日外国人旅行者にとって解説が分かりやすい、分かりにくいポイント</li> <li>・訪日外国人旅行者にとってデザインやレイアウトが見やすい、見にくいポイント</li> <li>・訪日外国人旅行者がパンフレットに求める情報</li> </ul>
調査の結果に基づく成果	外国人目線での具体的な改善方法が把握できた

### ③文化施設館内説明評価調査

調査内容	<p>(1)施設内調査 館内説明等の英語解説の作成を実施した市内の4施設(前田土佐守家資料館, 安江金箔工芸館, 中村記念美術館, 金沢能楽美術館)において、館内の多言語表記についてのアンケートを実施</p> <p>(2)施設比較調査 各施設での金沢の歴史や伝統文化など、類似の表現について、各表現を比較検証</p>
対象者	対象施設を利用した訪日外国人旅行者

調査方法	(1)施設内調査 記入式アンケート(各施設の受付で調査協力を依頼) (2)施設比較調査 各施設の解説文の比較
質問内容・調査項目等	(1)施設内調査 ・施設ごとの回答者の国籍 ・説明文の分かりやすさ ・説明文が分かりやすかった, 分かりにくかった理由 ・自由意見 (2)施設比較調査 各施設に共通する金沢の歴史や伝統文化に関する表記10項目の比較調査
調査で把握できた内容	(1)施設内調査 ・施設ごとの訪日外国人旅行者の国籍分布 ・訪日外国人旅行者にとって解説が分かりやすい, 分かりにくいポイント ・多言語化が不足している箇所の把握や多言語化に対する詳細な要望の把握 (2)施設比較調査 ・同一の歴史や伝統文化の英語解説の施設による差異 ・英語解説の誤り ・誤りではないが分かりにくい英語解説
調査の結果に基づく成果	・文化施設でこれまで別個の表記となっていた類似表記について統一ルール案が提示できた ・既存の解説文の見直しが必要な箇所が把握できた

### 🔗 翻訳業者との連携で質の高い多言語化を実現! .....

前ページの「③文化施設館内説明評価調査」で調査対象となった「安江金箔工芸館」は、説明文の分かりやすさについて、99%の訪日外国人旅行者から分かりやすかったという評価を受け、説明文中の英語の表現についても、誤りや見直しが必要なものはないと評価されました。

「安江金箔工芸館」では、説明文を作成する際、工芸館の日本人職員が翻訳用の和文を作成し、翻訳業者が作成した英語解説を更に職員がチェックし、活発にコメントのやりとりをするという工程を繰り返すことで、日本語特有の表現や微妙なニュアンスを伝えなければいけない部分についても表現を工夫し、外国人にとって分かりやすい解説につなげました。

このように、翻訳業者と密に連携をとることによって、外国人の人材がいない文化施設等であっても分かりやすい解説を作成することができます。



## 多言語化を依頼する前に・・・

.....  
既存の日本語解説が多言語化しやすい内容となっているかを確認しましょう!

文化財を多言語化する際、多言語解説を作成できる人材が組織内にいない場合には、外部に依頼することになります。

しかし、多くの場合、既存の日本語解説は、専門的な用語や普段使用しない用語が使われていることが多く、多言語解説を作成する執筆者が正確に理解することが困難なケースが散見されます。

長崎市では、市内の文化財について紹介した「長崎市の文化財」の多言語化を行うに当たって、既存の日本語解説について、下のポイントのように形式面・内容面の両面から記載を見直し、外国人が理解しやすい内容の平易な日本語解説とした後に、それを英語、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、韓国語に翻訳するという方法で多言語解説の作成を行いました。

以下では、多言語化を依頼する前に、日本語自体を分かりやすくするポイントをご紹介します。

### 日本語解説を分かりやすくするポイント

専門用語に説明や注釈を追加する。

**修正前** 阿蘭陀通詞中山家の墓地には、

**修正後** オランダ商館で通訳や貿易事務などに従事する役職である阿蘭陀通詞を代々務めた中山家の墓地には、

(出典:「長崎市の文化財」「阿蘭陀通詞中山家墓地」)

専門用語や難解な文言を平易な同義語に言い換える。

**修正前** 禅師は示寂している。

**修正後** 禅師は静かに没した。

(出典:「長崎市の文化財」「即非禅師書火化の偈」)

## 翻訳を依頼する際のポイント

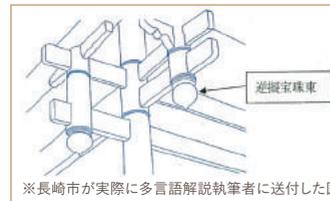
以下の手法を組み合わせると、文化財等の専門家でない多言語解説執筆でも理解しやすい情報提供をすることが、分かりやすい多言語解説を作成してもらう上で、非常に重要です。

### POINT 1 日本の歴史や文化の 基礎知識がない人が 読んでも理解できる内容 を目指しましょう

前述のように、日本語解説そのものを見直すことで、多言語解説執筆が解説の意味を理解しやすくなり、分かりやすい多言語解説につなげることができるようになります。日本語解説を見直す際には、現在使用している日本語解説が、専門家でなくても理解できる内容になっているか、という観点を意識してみましょう。



### POINT 2 写真や図も 活用しましょう



※長崎市が実際に多言語解説執筆者に送付した図

外部の多言語解説執筆者に多言語化を依頼する場合には、建造物の構造等、多言語解説執筆にとって馴染みがなく、説明が難しい形状については、写真や図を送ったり、実際に

現場での実物の確認を依頼したりする等、文字の情報だけでなく、視覚的な情報を併せて提供することも大変有効です。

### 5.4 国際交流員(CIR)の活用

長崎市では、上記の手法で見直した日本語解説の多言語化を事業者に委託するという方法で多言語解説を作成した後、完成した多言語解説について、市の国際交流員(CIR)が翻訳内容のチェックを行いました。

多言語化事業で作成した多言語解説については、文化財部局の担当者だけでは内容の確認が困難なケースも見受けられます。このような場合には、長崎市のように国際交流員(CIR)や国際関係部署の人材の力を借りることも有効です。

### 指示語を元の言葉に置き換える。

**修正前** この上層部の意匠は～それに類似する。

**修正後** この上層部の意匠は～大雄宝殿に類似している。

(出典:「長崎市の文化財」「崇福寺大雄宝殿」)

### 文章を短くする。

**修正前** 8代にわたって阿蘭陀通詞(おらんだつうじ)を勤めたが, 2代喜左衛門政純～

**修正後** 8代にわたって阿蘭陀通詞を勤めました。その中で, 2代喜左衛門政純～

(出典:「長崎市の文化財」「阿蘭陀通詞中山家墓地」)

### 接続関係を明確にする。

**修正前** 当初は単層(たんそう)屋根。35～6年後の延宝天和(えんぼうてんな)の頃,

**修正後** 当初は単層(たんそう)屋根であったが, 35～6年後に,

(出典:「長崎市の文化財」「崇福寺大雄宝殿」)

### 削除しても大きく意味が変わらない注釈, 専門用語, 説明の一部, 和暦などを削除する。

**修正前** 35～6年後の延宝天和(えんぼうてんな)の頃,

**修正後** 35～6年後に

(出典:「長崎市の文化財」「崇福寺大雄宝殿」)

### 読みにくい固有名詞等にルビを追加する。

**修正前** その兄魏毓帝の

**修正後** その兄魏毓帝(ぎいくてい)の

(出典:「長崎市の文化財」「鉅鹿家魏之琰兄弟の墓」)

これらの他にも、文章の順番を変えるだけでも解説が分かりやすくなります。

◆ 既存の日本語解説を見直すことで分かりやすい英語解説となった例

ここでは鳥根県益田市教育委員会が作成した「益田の歴史・中世編 中世の益田を歩いてみよう(増訂版)」に掲載されている解説を取り上げて日本語解説を見直すことで、分かりやすい英語解説となった例を見てみましょう。

専門用語である「御土居跡」や「平地居館」が分かりづらい。

三宅御土居跡が、どこに築かれたかの説明が長く、複雑な文となっている。

「11代」は混乱を招く。

「築造」という難しい漢語で分かりづらい。

日本の時代区分は外国人には馴染みがない。

〈①原文〉

三宅御土居跡は益田川右岸沿いの標高9mの微高地に築かれた益田氏の平地居館で、南北朝時代に11代兼見によって築造されたと言われています。

「三宅御土居跡が益田氏の平地居館である。」という文になっているが「三宅御土居跡」も「平地居館」も専門用語のため意味が分かりづらい。

日本語と同様に複雑な構造の文となっている。

「南北朝時代」という表現は、時代区分が分かりづらい。英訳だけ見ると、中国の南北朝時代と認識される可能性もある。

〈①の英訳〉

The historic site of Miyake Odoi was a heichi kyokan, owned by the Masuda Clan, which was built on the north bank of the Masuda River where there was a slight elevation of approximately 9 meters. It is said that the place was built by the eleventh generation Kanemi during the Period of Northern and Southern Dynasties .

外国人に分かりにくい専門用語の「平地居館」を分かりやすい「城」という言葉にしている。

〈②原文を分かりやすい日本語に見直した解説〉

三宅御土居跡は、平地に築かれた益田氏の城です。これは、益田川のすぐそばにありました。1336～92年ごろ益田兼見が建てたと言われています。

ポイント 2 三宅御土居跡があった場所をシンプルな文で表現している。

ポイント 3 南北朝時代について、西暦で年号を表示している。

ポイント 4 「11代」を削除し姓を加えることで混乱を防ぐ。

ポイント 5 「築造」を「建てた」という訳しやすい和語に変更している。

「三宅御土居跡は、益田氏の平地に築かれた城です。」とすることで、「三宅御土居跡」が城であることが分かるようになっている。

〈②の英訳〉

The historic site of Miyake Odoi used to be a castle of the Masuda Clan, and was built on flatlands. The castle was standing near the Masuda River. It is said that Kanemi Masuda built the place around 1336~92.

英語も日本語と同様に三宅御土居跡があった場所をシンプルな文で表現できている。

日本語を西暦としたことで外国人にも年代が分かりやすくなっている。

(京都外国語大学 作成)

事例4

京都府京都市

# 多言語化の先進事例！

.....  
 全国に先駆けて先進的な多言語化を行っている二条城の多言語化の手法を、詳しく見てみましょう！

二条城では、デービッド・アトキンソン氏のアドバイスを受けながら、先進的な多言語化を進めてきました。多言語化の際にどのような工夫がされたのか見てみましょう！

## 二条城における多言語化のポイント

### POINT 1

#### 多面的な整備

二条城は、文化財の解説板等を多言語化するだけではなく、訪日外国人旅行者が周遊するために必要な案内板や注意書きについても多言語化を行っています。

また、媒体についても、解説板の設置やパンフレットを配架するだけでなく、音声ガイドの導入や通訳案内士の配置、ホームページの整備など、ハードとソフトの両方について、多面的な多言語化を行っています。

さらに、来城者により詳しい二条城の情報を提供するため、平成30年度に日本語版を作成した「二条城公式ガイドブック(有料)」の英語版を、来年度に新たに作成する予定としています。

このように、二条城の多言語化は現在も常に進化を続けています。



### POINT 2

#### 工夫された解説板

#### 解説内容の工夫

英語解説に併記されている日本語解説をそのまま英訳するのではなく、日本の歴史や文化についての知識がない訪日外国人旅行者にも理解しやすいよう、日本語解説と比べて文章中に様々な補足がされています。そのため、ほとんどの解説板で日本語解説に比べて英語解説の分量が多くなっています。23ページ以降の赤文字で記載した説明文(I, III)は、併記されている日本語解説(II)に追加されている解説です。

このように、読み手が日本人ではなく、異なる文化圏で歴史や文化を学んできた外国人であるということを踏まえた上で解説を作成することが大切です。

#### 記載順序の工夫

内容だけでなく解説の記載の順序も、訪日外国人旅行者が読みやすい工夫がされています。通常の解説板は、書かれている文章を全て読まなければ概要が把握できないものが多いですが、二条城の解説板は、冒頭の文章で構成要素の概要を説明し(下図A)、その後個別の構成部分についての詳しい解説(下図B, C)、最後に補足的な説明(下図D)を記載しています。



文化財について、どの程度の情報を得たいかは、訪日外国人旅行者の日本文化に対する興味や知識により個人差があります。このような記載とすることで、それぞれの旅行者が、個々のニーズに合った情報を得やすくなります。

#### 「大広間 一の間・二の間」の解説板

將軍と大名や公卿衆との公式の対面所。大広間の主室であり、一の間(上段の間)、二の間(下段の間)からなる。一の間は、書院造の特徴である床の間、透棚、付書院、帳台構を備える。対面の際には、京都御所紫宸殿(正殿)の玉座に座る天皇と同じように、將軍は一の間で南を向いて座し、床の間に三幅対の掛軸をかけ、透棚や付書院には工芸品などを飾った。帳台構は將軍が一の間へ出座するための入口と考えられている。慶長8年(1603)に、伏見城で將軍宣下を受けた徳川家康は、この部屋にて、大名、公卿衆との対面を行ったとされ、慶応3年(1867)には、徳川慶喜が大政奉還の発表を行った、江戸時代のはじめと終わりに立ち会った空間である。現在は、一の間、二の間の二室構成であるが、資料や室内の柱の痕跡等から、慶長創建時には、上段・中段・下段と呼ばれる三室構成で、寛永期に改変されたことが判明している。

This main section of the Palace, the *Ohiroma*, the Great Hall, houses the official audience rooms where the Shogun met with the daimyo feudal lords and the Imperial court nobility. The two main rooms of the *Ohiroma* are the First Room (on the upper level) and the Second Room (on the lower level). The First Room is equipped with an alcove (*toko-no-ma*) on the far wall of the room, staggered shelves (*chigaidana*) to the right of the *toko-no-ma*, a writing alcove (*tsuke shoin*) to the left of the room, and an ornamental doorway (*chodai-gamae*) to the right of the room with the red tassels, all of which together are characteristic of the *shoin-zukuri* architectural style. During audiences, the Shogun is believed to have sat in the First Room facing south, in the same way that the Emperor sat facing south in the main hall (*Shishinden*) of the Kyoto Imperial Palace. Works of art would have been displayed on the shelves and in the writing alcove and a triptych of hanging scrolls would have been hung in the *toko-no-ma* alcove. The Shogun is believed to have entered the *Ohiroma* through the beautifully decorated door to the right of the First Room. It was in this room that Tokugawa Ieyasu is believed to have met with the feudal lords and the court nobles in 1603 after he received his appointment as Shogun by the Emperor at Fushimi-jo Castle to the South of Kyoto. It was also here in this room that the last Shogun, Tokugawa Yoshinobu, handed back political authority to the Imperial Court in 1867. Thus, the birth and the death of the Edo period and the Tokugawa Shogunate both took place in this room. While the *Ohiroma* now consists of only the First and Second Rooms, historical documents and markings on the interior pillars indicate that it originally was made up of an upper, middle, and lower level at the time of its construction. The room is believed to have been given its current form during modifications in the 1620s.



次のページからは、実際に二条城の二の丸御殿に設置されている「大広間 一の間・二の間」の解説を詳しく見てみましょう。

	I:実際に掲示している解説文(英語)
①	This main section of the Palace, the Ohiroma, the Great Hall, houses the official audience rooms where the Shogun met with the daimyo feudal lords and the Imperial court nobility. The two main rooms of the Ohiroma are the First Room (on the upper level) and the Second Room (on the lower level).
②	The First Room is equipped with <b>an alcove (toko-no-ma) on the far wall of the room, staggered shelves(chigaidana) to the right of the toko-no-ma, a writing alcove (tsuke shoin) to the left of the room, and an ornamental doorway (chodai-gamae) to the right of the room with the red tassels</b> , all of which together are characteristic of the shoin-zukuri architectural style.
③	During audiences, the Shogun is believed to have sat in the First Room facing south, in the same way that the Emperor sat facing south in the main hall (Shishinden) of the Kyoto Imperial Palace. Works of art would have been displayed on the shelves and in the writing alcove and a triptych of hanging scrolls would have been hung in the toko-no-ma alcove.
④	<b>The Shogun is believed to have entered the Ohiroma through the beautifully decorated door to the right of the First Room.</b>
⑤	It was in this room that Tokugawa Ieyasu is believed to have met with the feudal lords and the court nobles in 1603 <b>after he received his appointment as Shogun by the Emperor at Fushimi-jo Castle to the South of Kyoto.</b> It was also here in this room that <b>the last Shogun, Tokugawa Yoshinobu, handed back political authority to the Imperial Court in 1867. Thus, the birth and the death of the Edo period and the Tokugawa Shogunate both took place in this room.</b>

II:実際に掲示している解説文(日本語)	III:Iの翻訳	情報の 詳しさ
① 将軍と大名や公卿衆との公式の対面所。大広間の主室であり、一の間(上段の間)、二の間(下段の間)からなる。	① 将軍と大名や公卿衆との公式の対面所。大広間の主室であり、一の間(上段の間)、二の間(下段の間)からなる。 → A:構成要素自体の概要を説明	A ↓
② 一の間は、書院造の特徴である床の間、違棚、付書院、帳台構を備える。	② 一の間は、書院造の特徴である <b>部屋の一番奥にあるアルコーブ(床の間)</b> 、 <b>床の間の右側にある互い違いの棚(違棚)</b> 、 <b>左側にある書き物をする付属的な空間(付書院)</b> 、 <b>また右側にある赤い房の付いた装飾的な出入口(帳台構)</b> を備える。 → B:個別の構成部分の概要の説明	B ↓
③ 対面の際には、京都御所紫宸殿(正殿)の玉座に座る天皇と同じように、将軍は一の間で南を向いて座し、床の間に三幅対の掛軸をかけ、違棚や付書院には工芸品などを飾った。	③ 対面の際には、京都御所紫宸殿(正殿)の玉座に座る天皇と同じように、将軍は一の間で南を向いて座し、床の間に三幅対の掛軸をかけ、違棚や付書院には工芸品などを飾った。 → B:個別の構成要素の詳細な説明	B ↓
④ 帳台構は将軍が一の間へ出座するための入口と考えられている。	④ 将軍は <b>一の間</b> の <b>右手</b> の <b>美しい装飾された扉</b> を <b>通って大広間へ出座した</b> と考えられている。 → B:個別の構成要素の詳細な説明	B ↓
⑤ 慶長8年(1603)に、伏見城で将軍宣下を受けた徳川家康は、この部屋にて、大名、公卿衆との対面を行ったとされ、慶應3年(1867)には、徳川慶喜が大政奉還の発表を行った。江戸時代のはじめと終わりに立ち会った空間である。	⑤ 1603年に、 <b>京都の南にある伏見城で天皇から将軍としての命を受けた後</b> 、徳川家康は、この部屋にて、大名、公卿衆との対面を行ったとされ、 <b>1867年には、最後の将軍徳川慶喜が大政奉還の発表を行った。このようにして、この部屋で江戸時代と徳川幕府のはじめと終わりが両方行われたのである。</b> → C:個別の構成要素の詳細な説明等	C ↓

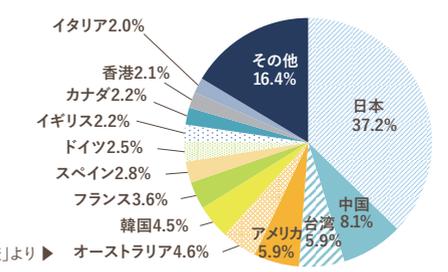
	I:実際に掲示している解説文(英語)	II:実際に掲示している解説文(日本語)	III:Iの翻訳	情報の 詳しさ
⑥	While the <b>Ohiroma</b> now consists of <b>only</b> the First and Second Rooms, <b>historical</b> documents and markings on the interior pillars indicate that it originally was made up of an upper, middle, and lower level at the time of its construction. The room is believed to have been given its current form during modifications <b>in the 1620s</b> .	⑥現在は、 <sup>いちまに</sup> 一の間、 <sup>にのま</sup> 二の間の二室構成であるが、資料や室内の柱の痕跡等から、慶長創建時には、上段・中段・下段と呼ばれる三室構成で、寛永期に改変されたことが判明している。	⑥現在の <b>大広間</b> は、 <sup>いちまに</sup> 一の間、 <sup>にのま</sup> 二の間のみの二室構成であるが、 <b>歴史資料</b> や室内の柱の痕跡等から、 <b>創建時</b> には、上段・中段・下段と呼ばれる三室構成で、 <b>1620年代</b> に改変されたことが判明している。 → D: 補足的な説明	D ↓

**POINT 3**  
言語の選び方



京都市では、パンフレットを多言語化する際、「平成27年度 京都観光総合調査」(平成27年1月～12月)の「京都市外国人宿泊客数」を基に対象とする言語(英、中(簡、繁)、韓、仏、西)を決定しました。  
その後も、二条城単体での訪日

外国人旅行者の国別の割合を調査する「二条城来城者調査」を平成28年度から毎年度実施するなど、効果的な多言語化を行うための調査を続けてきました。そして、この調査結果に基づいて、平成30年度新たにドイツ語版のパンフレットが作成されました。



**コラム5** 京都市の多言語化もこんなに変わった! ……

1985年に初来日した頃、ずっと憧れだった二条城を初めて訪れました。その当時から、私は文化財の解説をもっと充実すべきだと思っていました。オックスフォード大学では日本学を専攻していましたので、当然ですが、日本史、日本文化、古文なども勉強しました。勉学では日本文化の素晴らしさに感動しながらも、実際に当地を訪れてみると、解説があまりにも少ないことにもったいなさを感じたものです。それから30年余り経って、二条城の解説に関わるようになりました。解説をする最大の狙いは、訪れる人に多くの感動をもらうことですので、まずは訪れる人の目線に立って、一冊のパンフレットにいくつかの言語をまとめて書いてあったものを、言語ごとに別々のパンフレットを作りました。さらに、解説案内板でも出来上がった和文を翻訳することをやめました。もとの和文はどうしても日本人の知識と視点が基準なので、そのまま訳すと正しい翻訳であっても概念自体が伝わらず、言葉では分かっても意味までは伝わらないのです。例えば、参勤交代を alternative attendance と言われても通じないように。



**デービッド・アトキンソン**  
株式会社小西美術工芸社  
代表取締役社長、  
日本政府観光局 (JNTO)  
特別顧問、  
二条城特別顧問

今回二条城では、「日本史を全く知らない人」を基準にして解説をしました。建築、歴史、壁画の題材の意味など、多面的で、とにかく訪れる人には楽しく、正しく、勉強になる情報を与えることを第一の目的としました。また、二条城のスタッフが持つ豊富な知識を一部解説板に記載したことで、観光客が二条城で感じる感動は飛躍的に増大したと思います。併せて、私自身も大変勉強になりました。

**コラム6** 多言語解説で二条城の価値向上 ……

TAISEIHOUKAN-3年前まで、二条城二の丸御殿(国宝)大広間では、このように説明していました。日本に詳しくない外国人にはどう伝わっていたことでしょうか。著書「新・観光立国論」で我が国の文化財行政に一石を投じたデービッド・アトキンソン氏。悪い例として二条城を取り上げ、「説明」の重要性を主張されました。平成28年5月、二条城を批判されている彼を門川大作京都市長が「二条城特別顧問」に迎え改革がスタート。城内全域と二の丸御殿内部の案内看板(全381基)、来城者に配布するパンフレット(日本語版と外国語版(英・中・韓)2種類)を全面改訂することにしました。



**北村 信幸**  
京都市文化担当局長・  
元離宮二条城事務所長

まず日本語です。中高生が理解できるレベルを意識して文案を作成。これまで建築に関する説明が中心(しかも詳しくて一般の人には不要と思える記述も)であったものを「何を伝えたいか」ではなく、観光客目線で「何を知りたいか」の観点で見直しました。建築、美術、庭園の専門家など事務所スタッフあげて議論し、ようやく日本語が完成。

次に英語訳です。直訳ではなく、日本の歴史文化に知識があるネイティブスピーカー。業者に依頼することも考えましたが、身近におられました。アトキンソン氏です。何度も朱を入れ校了まで付き合ってもらいました(しかもボランティアで)。こうして完成した解説を食い入るように読んでいる外国人観光客を見ると、二条城の価値が上がったんだなあと感じています。

# 外国人が作った外国人向けのガイドブックを見てみよう!

日本在住の外国人が、自ら取材を行って訪日外国人旅行者に向けて作ったガイドブックについて、トピックスや掲載されている写真から外国人が注目するポイントを分析し、日本の魅力を再発見しよう!

これまで、外国人目線での多言語化についていくつかの事例を見てきましたが、民間企業でも、地域貢献の一環として、地域の文化財をより多くの外国人に知ってもらうことを目的として外国人のライターやカメラマンを雇用し、地域の文化財の情報発信を行っているところがあります。

そこで行われている取材や原稿の作成、ホームページやガイドブックのレイアウト作成等は、当該企業の従業員である外国人が、日本に興味を持っている外国人に、より日本の文化や文化財を知ってもらうことを目的として外国人目線で行っているものです。そこに記載されている情報や使用されている写真は、我々日本人にも日本の文化や文化財の新たな魅力を気付かせてくれる内容となっています。



株式会社 俄 Discover Kyoto編集部

外国人にとっては、地元の子供たちが行事に参加する様子も、その地域のコミュニティ性を感じられる興味深い情報となります。



掲載する写真を選ぶ際には、アーティスティックなタッチの写真を選ぶことが、外国人の興味をひくコツです。そして、それに加えて、「人にフォーカスする」ということも重要なポイントです。

歴史や文化は「人」が作り上げてきたものであり、ストーリーの紹介にとって「人」が欠かせないこと、そこに登場する「人」の表情、服装、装具等のバックグラウンドにはたくさんの情報がつまっていること、そして、写真を見ている人が、写真の中の「人」に自分を投影することによって疑似体験ができる、ということがその理由です。

## はねず踊り 随心院 Hanezu Odori | Plum Festival Zuishin-in



はねず踊りの伝統は一度途絶えましたが、1973年に地域の人々の努力により復活しました。当日は今様踊りなど他の催しものも楽しめます。The Hanezu Odori tradition had died out in the modern era until 1973 when the locals banded together to revive it.

すごく綺麗! 本当に生で見たい。(ブルガリア)  
So beautiful!  
I really wish I could see it live.

Serving as a celebration of the coming spring season and in honor of the famous poet and beauty Ono no Komachi, Zuishin-in temple's Hanezu Odori is held each year on the last Sunday of March. Based on an old folk song and dance tradition, the Hanezu Odori tells the story of Ono no Komachi and her ill-fated would-be lover in The Tale of One Hundred Nights.

Four separate performances are scheduled throughout the day, with the Hanezu Odori performed first, followed by an Imayo dance. Local school girls practice dutifully after school to perform the charming Hanezu Odori, and the Zuishin Imayo is presented by two young ladies dressed in the style of shirabyoshi, female entertainers dressed in men's religious garb.

In addition to the Hanezu Odori dance performances, mochi rice cakes are pounded throughout the day, made ready to eat or take home, and special uirō candy, which is sucked out of bamboo tubes, is offered by the winners of the previous year's Zuishin-in Miss Ono no Komachi Contest. The Zuishin-in Plum Garden is also a lovely vision in pink. Wherever you look, you'll find plum blossoms, whether on the trees or tucked into dancers' hats or sashes. Anyone interested in traditional Japanese performances ought to take themselves to the next Hanezu Odori!

【随心院】開催日程 / 3月最終日曜日  
京都市山科区小野御堂町 35 ☎075-571-0025  
9:00 ~ 16:30 (開演は11:00 ~、12:30 ~、13:30 ~、15:00 ~) 料金 / 1000円  
京阪バス小野下車、徒歩1分。地下鉄東西線小野駅下車、徒歩5分  
【Zuishin-in】 DATE : Last Sunday of March  
35 Ono Goryō-cho, Yamashina-ku, Kyoto City ☎075-571-0025  
9:00 ~ 16:30 (The Hanezu Odori 11:00, 12:30, 13:30, 15:00) Fee : 1,000 yen  
http://kyoto-design.jp/event/12207

「はねず」とは、薄紅色のこと。小野小町ゆかりの寺院である随心院では、「はねず」と呼び親しまれている紅梅が咲くころ、毎年3月の最終日曜日に「はねず踊り」が行われます。美しい歌人といわれた小野小町と、彼女に恋した深草少将の物語である「百夜笛」が、山科区小野地域に昔から伝わる民謡をベースとした音楽と舞によって表現されるものです。踊り手は地域の子供たち。はねず踊りの踊り子は、季節のシンボルとして梅の枝を持っています。もの悲しい物語ではありませんが、紅梅のような可憐な着物に梅の花をあしらった姿で、琴の伴奏と歌声が流れるなかで舞うこの踊りに、春を迎える人々の喜びが感じられるようです。

踊りは一日に4回行われ、「はねず踊り」とともに、平安時代の身分の高い女性が男性の装束を着て踊っていたという「今様踊り」も披露されます。自拍子(しらびょうし)の装束を着た今様の踊り子は、刀と梅の枝と舞扇を持っています。ほかにも、毎年ゲストが呼ばれて踊りを披露したり、「はねず踊り保存会」による餅つきの餅を味わうこともできます。ミス小野小町コンテストで選出された女性が販売する、竹の筒に入った「はねずういろう」もおみやげに人気です。鑑賞は有料ですが、このチケットで境内にある梅園にも入園できるので、春の随心院を存分に味わえることでしょう。



外国人は、日本の庭園等にも興味がある人が多いため、舞楽等の紹介にとどまらず、梅園についても取り上げています。



限られた紙面で少しでも多くの興味をひく情報を掲載するため、外国人が理解しにくい歴史や建物等の詳細な説明を減らし、「ご利益」を中心とした解説にしています。

「絵巻」のように、日本人に馴染みの深いものは日本語解説には記載せず、英語解説にのみ記載しています。

# Make a Wish!

京都で願いごとを叶えましょう!

地主神社(じしゅじんじや)は、清水寺の境内の中にあるひっそりとした神社です。しかし、その歴史は古く、創建年代は「神代(かみよ)」(日本の建国以前)とされ、現在の社殿は1633年徳川家光公により再建されたものです。京都の長い歴史を見守り続けてきた地主神社ですが、ここが多くの人で賑わうもうひとつの理由があります。それは、この神社が良縁の神様・大国主命(オオクニヌシノミコト)を主祀神とする「恋愛の神社」として名高いからです。ここには、恋の願いが叶うと伝わる「願掛けの石」がふたつあり、片方の石からもう一方の石へ、目を閉じながら歩き、廻りつくと恋が叶うといわれています。

Jishu Jinja, nestled inside Kiyomizu-dera grounds, is a shrine rich with history. The shrine is famous for match-making and couples. There are many ways you can make wishes to strengthen your love fortune. You can write wishes on tablets, or even try walking between two love rocks.

「Love!」恋愛の神様  
地主神社

有名な「恋占いの石」。写真はもみじ祭のときのもの。人を離れた恋に息を吹きかけ、身代わりとして水に流し、恋運、恋難など災難除けの「人形紙い」も有名です。  
The famous love rocks. The Momiji Matsuri at Jishu Jinja. Write your love wish. Then set it free in the water.

【地主神社】  
京都市東山区清水1丁目317 ☎075-541-2097  
【五条坂】「清水道」各バス停で下車。徒歩10分  
【Jishu Jinja】  
1-317 Kiyomizu, Higashiyama-ku, Kyoto City ☎075-541-2097  
<http://www.jishujinja.or.jp/>



# Good Luck Charm!

お守りに注目!

## 1. For Headache

頭痛封じ 三十三間堂  
Zutsu Fūji  
Sanjūsangen-dō

梅は昔から頭痛を防ぐ漢方薬として有名です。三十三間堂の重要な行事である梅枝のお加持では、聖樹とされる「梅枝・やなぎ」で、煎香煙に祈願した流水を参拝者に送いて、諸病を除くという儀式が行われます。この行事にちなみ、境内の梅の木と緑阪「消伏毒書院薬店」を収めた「頭痛封じ」という名前のお守りがあります。

This charm filled with a piece of willow and a sutra is said to aid in preventing and curing headaches. Willow has been used in folk medicine to soothe headaches for centuries.



## 2. For Scholastic Success

学業成就 黄檗山真福寺  
Gakugyō Jōju Omamori  
Manpuku-ji

宇治市の黄檗山(おうばくさん)真福寺には、鉛筆の形の学業成就のお守りがあります。五角(ごかく)鉛筆の五色セット。五教科「数学、理科、社会、国語、英語」の向上を願うお守りです。ここでは変わったお守りがあるだけでなく、坐禅、写経、抹茶(ふちや)料理なども体験できます。

This charm is geared towards helping you in your studies. The five pencils represent the five main subjects in school—Math, Science, Social Studies, Japanese, and English.



## 3. For Break Up/Make Up

縁切り&縁結び 安井金比羅宮  
Enkiri/Enmusubi Omamori  
Yasui Konpira-gū

祇園の安井金比羅宮は、主祭神の崇徳天皇(すくとくてんのう)が讃岐の金の比羅宮で一切の欲を断ち切ったことから、古来、断ち物の祈願所として、人々が悲しい境遇にあわぬよう縁を断ち切る神社です。ネガティブな関係から縁を切る「縁切り」と、良縁と良い生き方を応援する「縁結び」のお守りがあります。

The first charm, "enkiri" ("bond severing"), serves to let you break free from negative relationships. The second, "enmusubi" ("bond securing"), allows you to make good ones.



【三十三間堂】  
京都市東山区三十三間堂町 657  
☎075-561-0467 京阪七条駅下車。徒歩7分  
【Sanjūsangen-dō】  
657 Sanjūsangen-dō Mawari-chō,  
Higashiyama-ku, Kyoto City ☎075-561-0467  
<http://www.sanjusangendo.jp>

【黄檗山真福寺】  
京都府宇治市五ヶ庄三善割34  
☎0774-32-3900 JR奈良線黄檗駅、京阪宇治線  
黄檗駅下車。徒歩5分  
【Manpuku-ji】  
34 Sanbanwari, Gokashō, Uji City, Kyoto  
☎0774-32-3900  
<http://www.obakusan.or.jp/>  
[http://zan.annou.net/head-  
temples/02manpuku.html](http://zan.annou.net/head-<br/>temples/02manpuku.html) (English)

【安井金比羅宮】  
京都市東山区下弁天町 70  
☎075-561-5127 京阪祇園四条駅下車。徒歩10分  
【Yasui Konpira-gū】  
70 Shimobenten-chō, Higashiyama-ku,  
Kyoto City ☎075-561-5127  
<http://www.yasui-konpiragou.jp/>  
<http://www.yasui-koupiragou.jp/en/> (English)

「お守り」は、日本の歴史や文化だけでなく日本人の精神性を感じられるものとして外国人にとっても人気があるため、焦点を当てて紹介しています。

日本にやってくる外国人は、「お守り」が個々に異なった「ご利益」があることにとっても興味を持つそうです。最近では、その中でもユニークな「ご利益」があるものの人気が高まっているため、ここでユニークな「ご利益」のお守りを紹介しています。

## コラム 8 Facebookを活用したニーズ調査

「AMAZING KYOTO」では、祭礼を中心に紹介しています。それは、「AMAZING KYOTO」を発行するきっかけとなったFacebookページの「Kyoto Fan」で、多くの外国人が「いいね!」した記事の多くが祭礼を取り上げたものだったからです。

建物や景色を中心とした構成のガイドブックが多い中、祭礼を中心に取り上げたユニークなガイドブックはこうして生まれました。このように、海外の利用者が多いSNSでのニーズ調査も、多言語化の対象を決めるうえで大変効果的です。

## コラム 8 海外には四季がない?

「海外には四季があるところがない」という言葉を聞いたことがある方も多いのではないでしょうか?しかし、多くの国では日本と同様に四季はあります。ただ、海外では、日本のように、慌ただしい日常の中で、少し立ち止まって四季の移ろいに思いを馳せるということが少ないのだそうです。そのため、日本を訪れる訪日外国人旅行者は、花見や紅葉など「季節感」を感じることができる場所に興味を持つ方が多いそうです。こうした背景もあり、最近では観光客が集中する人気のスポットではなく、ゆったりと「季節感」を感じられる穴場のスポットに興味を持つ訪日外国人旅行者も増えてきているということです。

## 外国人と日本人の考え方の違い

異文化コミュニケーションの中の1つの概念として、「受信者責任型文化」と「発信者責任型文化」という考え方があります。

「受信者責任型文化」とは、言葉や文字で発信された情報を受け取る人が、その場の状況や雰囲気なども含めながら、その情報の意味を解釈して、行間に隠れたニュアンスもくみ取りながら理解する文化のことです。発信者が具体的な内容を説明しなかったとしても、受信者はそれを推し量って理解することができます。内容が伝わらなかつたら、それは受け取る人の責任になります。

それに対して「発信者責任型文化」とは、発信者がその情報の伝達に責任を持つ文化です。内容が伝わらないのは情報不足、説明不足であり、発信する人の責任になります。

もちろん個人差はありますが、日本人は受信者責任型が強い傾向があるため、発信者責任型文化も存在することを理解していないと、様々な齟齬が発生することになります。

例えば、文化財に「Do Not Take Photos(撮影禁止)」という注意書きがされていた場合を例に考えてみましょう。

「受信者責任型文化」では、「Do Not Take Photos(撮影禁止)」という注意書きを見た受信者が、「写真を撮ることで文化財の劣化につながるのかな?」、「立ち止まって写真を撮ると周囲の迷惑になるのかな?」といったように行間に隠れた意味をくみ取って自ら理解するため、詳細な理由を

書かずに指示のみを記載しても注意書きは十分に効果を発揮します(図1)。

それに対し、「発信者責任型文化」では、何故写真を撮ることを禁止するのかという理由を記載しなければ、受信者側に写真を撮ってはいけない理由が伝わらないため、結果として注意書きが守られない危険性が生じてしまいます(図2)。

その他にも、このような話があります。ある外国人が多くの日本人とともに接待で料亭に連れられてきました。同行の日本人が玄関で靴を脱いでいるところを見ているので大丈夫だろうと、日本人の通訳の人が特に注意をしなかったところ、その外国人は靴を履いたまま料亭に上がってしまいました。これも「受信者責任型文化」であれば周囲の状況から情報を読み取り、それに従うことができますが、「発信者責任型文化」であれば、はっきりと言葉で情報を伝えなければ従わない場合があることを示す事例です。

日本人はちょっとした言葉や周りの雰囲気から得た情報を元に意味を補って理解しながら行動します。「発信力」を中心とした文化の人たちは、はっきりとした言葉による情報がなければ、勝手な行動をとってしまいます。したがって、注意喚起や禁止事項に関する掲示をする時は、はっきり意味が伝わるように記載することが望ましいでしょう。

(本文:京都外国語大学 作成)

図 1

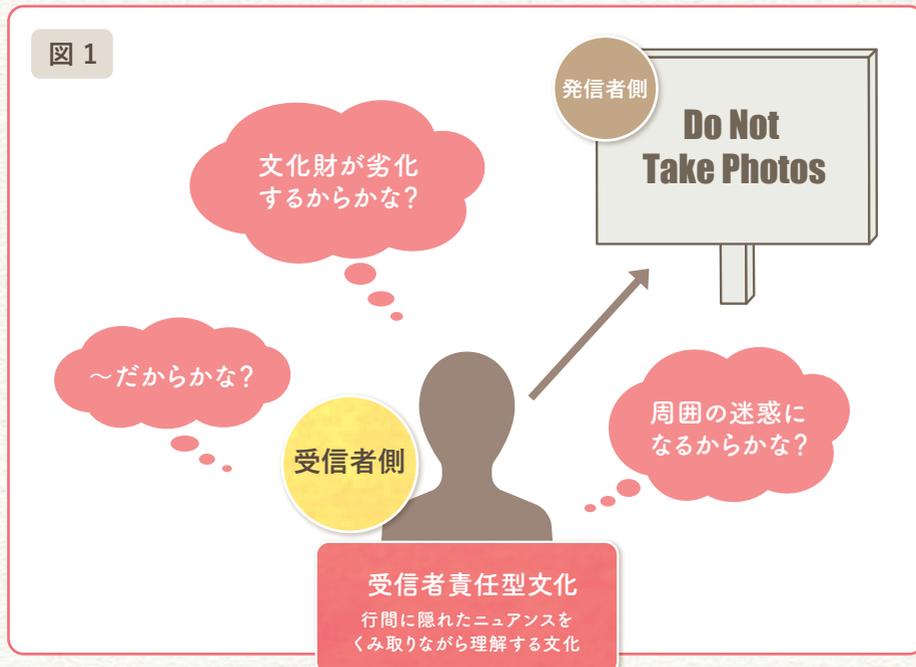


図 2



## 日本の文化や文化財の観光マナーを伝えよう

ここでは、訪日外国人旅行者に伝えたい文化や文化財の観光マナーについて、掲示や指さしで今日からすぐに使用していただけるフレーズを掲載しています。

また、観光に必要な案内表示に使用できるフレーズや口頭で使用できるフレーズについても併せて掲載しますので、こちらについても是非ご活用いただければと思います。

(京都外国語大学 作成)

### 注意書き

### 禁止表示についてのポイント

#### 1. 禁止の表現方法

##### 英語

禁止表現に「No」や「Not」など、否定句が先頭に含まれるものは積極的な禁止を意味する表現となります。

また文字の大きさや色、それを表記する板の色を変えたり、すべて大文字にするなどにより、警告の強さを表現することができます。大文字、小文字の組み合わせや、文字サイズを変える、色を変えるなどは、他の表現にも適用して、強調や抑えた表現をすることができます。

重要なのは、注意を惹きたい言葉を強調することを意識することです。

「DO NOT ENTER」、「Do Not Enter」、「Do not enter」を比較すると、全て大文字がもっとも厳しい表現での「入るな」、頭文字が大文字がそれに次いで強い表現での「入るな」、という意味になり、先頭のみ大文字にした場合は、「入らないください」というニュアンスになります。

##### 中国語

中国語の「禁止」は日本語の「禁止」とほぼ同義的に使われています。明確な意思表示をする場合、そのまま使用しても特に問題ありません。

#### 2. 禁止をより丁寧に表現したい場合

##### 英語

「Please」をつけると、柔らかい表現になります。1行で記入しても良いですが、2行に分けて警告文の上か下に記す、また警告文より「Please」を大きくすると、抑えた表現ができます。後ろにつける場合より、前につけた方がより抑えた表現となります。

※禁止の度合いが強い順(強い>弱い)

例:「Do Not ○○○」>「Do Not ○○○, please」>「Please Do Not ○○○」

##### 中国語

すべての表現に適用できることですが、「禁止」を「谢绝」あるいは「请勿」に置き換えれば丁寧な表現となります。同様に、「禁止使用」を「谢绝使用」や「请勿使用」などに置き換えれば、より丁寧な表現になります。

※禁止の度合いが強い順(強い>弱い)

例:「禁止○○」>「谢绝○○」>「请勿○○」

#### 3. 禁止の理由

柱や壁、障子や襖など、簡単に触れられるものであっても、文化財保護の観点から触れることを禁じる場合、注意書きや警告文と共にその理由を「In order to protect the cultural property」「为保护文化财」などを表示すると理解されやすいです。

#### コラム9 注意書き等を掲示する際の注意

近年、訪日外国人旅行者の間では、以前にくらべて日本文化、特に公共マナーなどについての理解が浸透し始めています。そのため、常設的に禁止表示を設置するのではなく、常に状況を確認しながら表示内容の削除・変更など再検討していく必要があります。

なお、特定の言語の注意書きや警告文のみを掲示したり、他の言語と比べて文字を大きくする、色を変えるなど、目立つようにしたりすること等も、当該言語を使用している旅行者の感情を害することがあるため注意が必要です。

**立入禁止 ➡ Do Not Enter / 禁止入内**

- 入るな **Do Not Enter / 禁止入内**
- 入らないでください **Keep Out / 请勿入内**
- 関係者専用 **Staff Only / 游客止步**

※上から順に禁止の度合いが強い。

※「Staff Only」は、職員以外の一般の観光客による侵入を認めない場所などに用いる。

**ポイ捨て禁止 ➡ No Littering / 禁止乱丢垃圾**

- ゴミ箱はありません  
**No trash bins are provided**  
不設垃圾箱
- ゴミはお持ち帰りください  
**Please take litter with you**  
请将垃圾带出本场馆
- ゴミ箱は入場券売り場に設置しています  
**Trash bins are located near the ticket office**  
门票购买处设有垃圾箱

**飲食禁止 ➡ No Food or Drinks / 禁止饮食**

**禁煙・喫煙禁止 ➡ No Smoking / 禁止吸烟**

**土足厳禁 ➡ No shoes / 严禁穿鞋入内**

- 靴を脱いでください  
**Please take off your shoes before entering**  
请脱鞋入内

- (文化財が傷みますので)靴を脱いでください  
**(In order to protect the cultural property,) please take off your shoes before entering**  
(保护文化财,) 请脱鞋入内
- 靴は靴箱に入れてください  
**Please put your shoes in storage**  
请将鞋子放入鞋柜
- 靴を脱いでスリッパに履き替えてください  
**Please put on slippers before entering**  
请换穿拖鞋
- 靴は袋に入れて持ち歩いてください  
**Please put your shoes in a plastic bag and carry them with you**  
请将鞋子放入塑料袋内随身携带
- 靴下を着用してください(ストッキングは不可)  
**Please put on socks (nylon stockings are not sufficient) before entering**  
请勿赤足入内(丝袜不可)

**撮影禁止 ➡ No photos or videos / 禁止拍照及摄影**

◆撮影禁止

- すべての撮影・録音は禁止です  
**No Recordings of ANY KIND (This includes video, audio, images, and other scanning devices)**  
严禁拍摄及录音
- 信仰対象のため撮影は禁止です  
**Please respect this place of worship – No Photography or video**  
涉及宗教信仰, 禁止拍照或摄影
- 他の観光客(参拝客)のさまたげになるため撮影は禁止です  
**As it may disrupt other visitors(worshippers), no photos or videos are allowed**  
为避免影响他人, 禁止拍摄

#### ◆フラッシュ撮影

- フラッシュ撮影は禁止です  
**No Flash Photography**  
禁止使用闪光灯
- (文化財が傷みますので)フラッシュを使用しての撮影はしないでください  
**(In order to protect the cultural property,) please do not take flash photos**  
(保护文化财,) 拍摄时请勿使用闪光灯

#### ◆その他の撮影

- 他の観光客(参拝者)の邪魔になりますので自撮り棒を使用した撮影はしないでください  
**As it may disrupt other visitors (worshippers), no selfie sticks are allowed**  
为防止意外, 请勿使用自拍杆
- 他の観光客(参拝者)の邪魔になりますので撮影機材は持ち込まないでください  
**As it may disrupt other visitors (worshippers), please do not bring in filming equipment**  
为避免影响他人, 请勿携带摄影器材入内

#### さわらないで ➡ **No Touching** / 请勿触碰

- (文化財が傷みますので)お手を触れないでください  
**(In order to protect the cultural property,) please do not touch**  
(保护文化财,) 请勿触碰
- (文化財が傷みますので)柱や壁に触れないでください  
**(In order to protect the cultural property,) please do not touch the pillars or walls**  
(保护文化财,) 请勿触碰柱子和墙壁
- (文化財が傷みますので)障子等の開け閉めはご遠慮ください  
**(In order to protect the cultural property,) please do not open or shut the sliding doors**  
(保护文化财,) 请勿开合纸门等

#### 傘の持ち込み禁止 ➡ **No umbrellas** / 禁止带伞入内

- (文化財が破損するおそれがあるため)傘を持ち込まないでください  
**Please do not bring in umbrellas (in order to avoid damaging the cultural property)**  
(为防止文化财受损,) 请勿带伞入内
- 傘置き場をご利用ください  
**Please use the umbrella stand**  
请使用伞架
- 傘袋をご利用ください  
**Please cover your wet umbrellas in a plastic bag**  
请使用伞套

#### スーツケース持ち込み禁止 ➡ **Do not bring in suitcases** 禁止携带行李箱入内

- (文化財/建物/通路)が傷みますので)スーツケースを持ち込まないでください  
**(In order to protect <the cultural property/the building / the floor>), no large suitcases are allowed**  
(为保护文化财/建筑物/通道,) 请勿携带行李箱入内
- 他の観光客(参拝者)のご迷惑になりますので、スーツケースを持ち込まないでください  
**As it may disrupt other visitors (worshippers), please do not bring in suitcases**  
为避免影响他人, 请勿携带行李箱入内

#### 静かに ➡ **Please Be Quiet** / 肃静

- 信仰の場所ですのでお静かに願います  
**As this is a place of worship, please be quiet**  
宗教场所, 请保持肃静

- 他の観光客(参拝者)の迷惑になりますので,お静かに願います  
As it may disrupt other visitors (worshippers), please be quiet  
为避免影响他人, 请保持肃静

**携帯電話での通話禁止 → No talking using cellphones / 禁止使用手机通话**

- 他の観光客(参拝者)のご迷惑になりますので,携帯電話で通話しないでください  
As it may disrupt other visitors (worshippers), no talking using cellphones  
为避免影响他人, 请勿使用手机通话
- マナーモードにしてください  
Please set your phone to silent mode  
请设为静音模式

**餌やり禁止 → Do not feed the animals / 禁止喂食**

- 鳩に餌を与えないでください  
Please do not feed the pigeons  
请勿喂食鸽子

**唾吐き禁止 → No spitting / 禁止吐痰**

**充電禁止 → No charging / 不提供手机充电**

- コンセントの使用禁止  
Do not use the outlet  
请勿擅自使用电源插座

**ドローン禁止 → No Drones / 禁止无人机**

**駐輪禁止 → No Bicycle Parking / 禁止停放自行车**

- ここは駐輪禁止エリアです  
No Bicycle Parking Zone  
自行车禁停区
- ここに自転車を駐輪すると撤去します  
Bicycles parked here will be removed without notice  
此处停放自行车将被清理

**ろう10 注意書きの一括掲示** .....

施設内の該当の箇所に注意書き等を設置することで,効果的に注意喚起をすることができますが,一方で景観が損なわれる恐れもあります。そのような場合には,景観に配慮したデザインの看板に,全般的な注意事項を掲示して施設の入口の目立つ場所に設置するといった工夫も考えられます。

その際,以下のような「文化財の保護にご協力ください。」「ここは神聖な場所です。敬意を払ってください。」等の文章と併せて注意書きを記載することで,何故それぞれの行為が禁止されるのかということを分かりやすく表示することができます。

(例)  
**注意**  
文化財の保護にご協力ください。  
○ポイ捨て禁止  
○飲食禁止  
○撮影禁止



(写真:八坂神社入口看板)

<注意書きの前に記載する文章の例>

「文化財の保護にご協力ください。」

Please help us protect this cultural property. 保护文物, 谢谢合作。

「ここは神聖な場所です。敬意を払ってください。」

This is a sacred site, please respect it as such. 神圣场所, 请心存敬意。

「ここは宗教施設です。敬意を払ってください。」

This is a religious site, please respect it as such. 宗教设施, 请心存敬意。

## 案内表示

### 見学ルート関係

#### ○見学ルート(順路)

##### Route for Visitors

※「Tour route」とすると、ツアー専用のルートと誤解される可能性があります。  
参观途径 (参观顺序)

#### ○こちらが入り口です

##### Entrance

入口

#### ○(1列/2列)で順番にお並び下さい

##### Wait in (single / double) file, please

请排成 (1排 / 2排)

#### ○この先へは進めません

##### Do not go beyond this point

此路不通

#### ○ご自由にお入りください

##### Feel free to enter

参观免费

#### ○足元注意

##### Watch Your Step

注意脚下

#### ○頭上注意

##### Watch Your Head

注意头顶

#### ○飛び石の上を歩いてください

##### Please step only on the stepping stones

请在垫脚石上行走

#### ○砂利を踏まないでください

##### Keep off the gravel

请勿踩踏砂石

#### ○芝生を踏まないでください

##### Keep off the grass

请勿踏入草地

### 展示関係

#### ◆公開・非公開

#### ○現在は非公開としています

##### Currently, not open to the public

不对外开放

#### ○現在、特別公開を行っています

##### Currently, specially open to the public

特别开放

#### ○公開期間は△△日から△△日までです

##### Open to the public from △△ to △△

开放期间自△△日起至△△日

#### ◆レプリカの展示

#### ○原画(現物)は修復中です

##### The original work is under repair

原画(藏品)修复中

#### ○御覧いただいている作品はレプリカです

##### This is a replica

展品为复制品

#### ○ご自由に触れていただいて問題ありません

##### Please feel free to touch the replica

可以自由触碰

#### ◆パンフレット等解説の案内

#### ○英語のパンフレットがあります/中国語のパンフレットがあります

##### English brochures available

备有中文导览手册

#### ○英語のパンフレットはありません/中国語のパンフレットはありません

##### We do not have English brochures

无中文导览手册

- パンフレットをご自由にお持ちください  
**Feel free to take a brochure**  
※「one」「a brochure」としなければ、あるだけすべて持ち帰ってよいと受け取られる可能性があります。  
 説明紹介資料無料
- ホームページには英語での説明があります／ホームページには中国語での説明があります  
**English guide available on homepage**  
 中文说明请参见官网
- 英語の音声ガイドがあります／中国語の音声ガイドがあります  
**English audio guide available**  
 提供中文语音讲解

## 営業時間,入場料関係

### ◆営業時間,定休日等

- 営業時間  
**Business Hours**  
 营业时间
- 開門／閉門  
**00:00 am - 00:00 pm**  
※13:00～24:00の表記が日本で使用されていることは浸透しています。  
 开门/关门
- 定休日:月曜日(定休日:月,火曜日)  
**Closed Mondays (Closed Mondays and Tuesdays)**  
※「定休日」とは表現せず,定休曜日を記載します。  
 定休日:星期一(定休日:星期一、星期二)  
※中国語では曜日を以下のように表記します。日曜日(星期日),月曜日(星期一),火曜日(星期二),  
 水曜日(星期三),木曜日(星期四),金曜日(星期五),土曜日(星期六)  
※日曜日は(星期「天」)とも表記しますが,書き言葉では(星期日)が一般的です。
- 年中無休  
**Open Year Round**  
 全年无休

### ◆入場料・拝観料等

- 入場料／拝観料  
**Entrance Fee/Required Donation**  
 门票

- 大人料金  
**Adults ¥000**  
 成人票价 ¥000
- 子供料金  
**Children/Students ¥000**  
 儿童票价 ¥000
- シニア割引(60歳以上)  
**Senior Discount (over 60 years old) ¥000**  
 老年人优惠票价(60岁以上老年人优惠票价) ¥000  
・シニア割引を受けるためには年齢確認ができる書類(パスポートの提示)が必要です  
**Please provide your passport for Senior Discount to confirm your age**  
 购买老年人优惠票需出示可证明年龄的相关证件(护照)
- 障害者割引  
**Disabled Discount ¥000**  
 残障人士优惠 ¥000
- 団体割引  
**Group Discount**  
 団体优惠  
・団体割引は事前の申請が必要です  
**It is required to apply in advance for Group Discount**  
 享受团体优惠需事先申请  
・団体料金は20名から適用されます  
**Group Discount: Groups of 20 or more**  
 团体优惠20名起

## 施設内の案内

### ◆障害者・高齢者向けの案内

- エレベーターがあります  
**We have elevators**  
 设有电梯
- スロープがあります  
**Slopes are provided**  
 备有轮椅坡道板

- 車いすでも通れます

**Wheelchair accessible**  
轮椅可通行

- 障害者用トイレがあります

**Wheelchair accessible toilets available**  
设有残障人士专用洗手间

- 盲導犬／介護犬は同伴できます

**(Guide Dogs / Service Dogs) are allowed**  
导盲犬／辅助犬可随行

#### ◆Wi-Fi

- Wi-Fiはありません

**No Wi-Fi**  
不提供WIFI

#### ◆監視カメラ

- 監視カメラを設置しています

**Security Cameras in Operation**  
设有监控录像

#### トイレ内の案内

- トイレトーパー以外のものを流さないでください

**Don't flush anything besides the toilet paper provided**  
请勿将厕纸以外的东西丢入马桶

- トイレトーパーはゴミ箱に捨てずに流してください

**Don't put used toilet paper in the waste bin. Please flush it down the toilet.**  
请勿将厕纸丢入垃圾箱

- トイレトーパーを持ち帰らないでください

**Toilet paper is provided only for use here. Do not take it with you.**  
请勿将备用厕纸带走

- 備え付けのトイレトーパーはありません

**No toilet paper is provided**  
无备用厕纸

#### 売店等での案内

- 御用の方はお声がけください

**Feel free to ask the staff questions**  
有需要的顾客请招呼店员

- 御用の方はインターホンを鳴らしてください

**If you need to talk to someone, please push the button on the intercom**  
有需要的顾客请按铃

- 中で販売しています

**Gifts and souvenirs are sold inside**  
店内有售

- 両替は受け付けていません

**We do not provide money changing services**  
不提供换钱服务

- 支払いは現金のみ(クレジットカードは使えません)

**We accept only cash (No credit cards accepted)**  
请支付现金(不接受信用卡)

- 当店利用のお客様以外の利用お断り

**Customers only, please**  
谢绝在本店消费以外的顾客使用

- 座席の長時間利用はお控え下さい

**Please refrain from using the space for an extended period**  
请勿长时间占用座位

- 御朱印を希望される参拝者はお声がけください(インターホンを鳴らしてください)

**Worshippers wishing to obtain a temple/shrine stamp, please notify the staff (Please push the button on the intercom)**  
希望获取御朱印的参拜者请通知工作人员(请按铃)

※中国語には「御朱印」の定訳はありませんが、「御朱印」という単語自体がすでに浸透しています。

## □頭で使えるフレーズ

### 挨拶・声掛けフレーズ

○ようこそ	<b>Welcome</b> ファンイン 欢迎
○私は△△と申します	<b>My name is △△</b> ウオチャオ△△ 我叫△△
○何かお手伝いしましょうか	<b>May I help you</b> ヤオ バンマン マ? 要帮忙吗?
○少々お待ちください	<b>Please wait a moment</b> チンシャオダン 请稍等
○私についてきてください	<b>Please follow me</b> チンケンウオライ 请跟我来
○こちらを差し上げます	<b>This is for you</b> ゲイニン 给您
○こちらは△△円です	<b>That will be △△ yen</b> △△リーユウエン △△日元
○申し訳ありませんが、わかりません	<b>I'm sorry, but I don't understand</b> トウイブウチーウオ ティンブドゥン 对不起, 我听不懂
○ゆっくり話してください	<b>Slowly, please</b> チンシュオダァマン イーディアン 请说得慢一点儿
○英語は話せません／中国語は話せません	<b>No English</b> ウオブドゥン チョンウエン 我不懂中文  ※「I don't speak English.」であれば、文章を話していることから、聞いた人が英語を話すことができていると違和感を覚えることがあります。
○英語を話せる人はいません／中国語を話せる人はいません	<b>No one here speaks English</b> メイヨウレンフェイスユオ チョンウエン 没有人会说中文

## 🏠 施設等の案内

○観覧(営業)時間は△△時から△△時までです	<b>We are open from △△ to △△</b> ツァンクワン(インイエ) シイチェン ウェイ△△ディエン タオ△△ディエン 参观(营业)时间为△△点到△△点
○トイレはあちらです	<b>The toilets are over there</b> スウソオツァイ ナアリイ 厕所在那里
○トイレはありません	<b>There are no toilets</b> メイヨウ スウソオ 没有厕所
○右側／左側にあります	<b>It's on the (right/left) side</b> ツァイ ヨウビェン／ツァイ ズウオビェン 在右边/在左边
○入場券売り場(拝観受付)はあちらです	<b>The admission ticket office is over there</b> ミェンピャオ ショウビャオ チュウザイ ナアリイ 门票售票处在那里
○拝観(入場)には予約が必要です	<b>You must have a reservation</b> リュウチャン シュヤオ ユウユウエ 入场需要预约
○手荷物預かり所はあちらです	<b>Baggage room is over there</b> シンリイ チイツゥン チュウザイ ナアリイ 行李寄存处在那里
○自転車置き場はありません	<b>No bicycle parking</b> メイヨウ ツゥシンチャ ティンファンディエン 没有自行车停放点
○自転車置き場はあちらです	<b>Bicycle parking over there</b> ツゥシンチャ ティンファンディエン ツァイナアリイ 自行车停放点在那里
<b>🚫 注意フレーズ</b>	
○喫煙は禁止されています	<b>No smoking, please</b> ブッカアイイ シイエン 不可以吸烟
○土足／裸足での入場は禁止されています	<b>No entry (wearing shoes / with bare feet)</b> ブッカアイイ チュアンシエ／チイツゥンチイ 不可以(穿鞋/赤足)进去
○撮影は禁止されています	<b>No photos allowed</b> ブッカアイイ パイチャオ 不可以拍照

## 参考資料

### 「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」(平成26年3月) 【観光庁】

美術館・博物館、自然公園、観光地、道路、公共交通機関等において、外国人目線に立った各分野に共通するガイドライン

<http://www.mlit.go.jp/common/001029742.pdf> (全文)

<http://www.mlit.go.jp/common/001029755.pdf> (概要)

### 「訪日外国人旅行者の受入環境整備における国内の多言語対応に関するアンケート結果」(平成28年3月)【観光庁】

訪日外国人旅行者を対象に、旅行中に困ったこと、受入環境(多言語対応、通信環境、公共交通等)へのニーズ、満足度等に係るアンケートを実施したアンケート結果

<http://www.mlit.go.jp/common/001226100.pdf>

### 「文化財の英語解説のあり方について」(平成28年7月)【文化庁・観光庁】

訪日外国人旅行者が文化財の魅力を十分に感じ、楽しめるような環境整備に向け、文化財の英語解説に当たり必要な視点を整理し、具体的な取組事例を紹介した文化財の多言語化を考える上でのバイブル

<http://www.mlit.go.jp/common/001142178.pdf>

### 「文化財に関する国際発信力強化の方策について(提言)」(平成29年9月)【文化庁】

上記の「文化財の英語解説のあり方について」を深化させつつ、更に広い視点で文化財の国際的な魅力発信の方策を検討し、外部有識者からのヒアリング及び委員の議論等の積み重ねによって、文化財の国際発信力強化等に必要な事項を取りまとめたもの

[http://www.bunka.go.jp/koho\\_hodo\\_oshirase/hodohappyo/pdf/2017090803\\_besshi01.pdf](http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/pdf/2017090803_besshi01.pdf) (全文)

[http://www.bunka.go.jp/koho\\_hodo\\_oshirase/hodohappyo/pdf/2017090803\\_besshi02.pdf](http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/pdf/2017090803_besshi02.pdf) (概要)

## その他

### 「多言語表記対訳語集」(平成27年8月)【環境省】

「自然公園等施設技術指針」(平成25年7月制定、平成30年5月改定)に掲載されている対訳語集

[https://www.env.go.jp/nature/park/tech\\_standards/14\\_4.pdf](https://www.env.go.jp/nature/park/tech_standards/14_4.pdf)

### 「地名等の英語表記規程」(平成28年3月)【国土地理院】

国土地理院が作成する地図及び地名集に記載する地名及び施設名の英語表記基準として、標準的な表記方法を定めた規定

<http://www.gsi.go.jp/common/000138865.pdf>

### 観光客は外国人! 文化財の多言語化ハンドブック

平成31年3月発行

編集・発行  
文化庁 地域文化創生本部

〒605-8505 京都府京都市東山区東大路通松原上る三丁目毘沙門町43-3

TEL 075-330-6737 FAX 075-561-3511 e-mail bunkakanko@mext.go.jp